

第3回苫小牧市中小企業振興審議会要旨

1 日時 平成26年2月12日(水) 13:30～15:30

2 場所 本庁舎4階 会議室

3 出席

(1) 苫小牧市中小企業振興審議会委員

川島会長、市古副会長、秋山委員、岩佐委員、鹿毛委員、川村委員、小玉委員、坂本委員、佐藤委員、伴辺委員、林委員、廣澤委員、矢野委員

(2) 事務局(市)

片原産業経済部次長、

商業観光課 : 池田課長、銅主査、畑山主査

工業労政課 : 桜田課長、大津主事

4 概要

(1) 開会

川島会長より開会。

(2) 新委員の報告と自己紹介

事務局より商工会議所議員の改選により、苫小牧商工会議所の鈴木花次雄委員から、川村寿一委員となったことについて報告。併せて川村委員から自己紹介。

(3) 副会長選出

委員の互選により、市古副会長の選出

(4) 副会長挨拶

(5) 議事

① 審議会テーマについて テーマ「創業促進・人材育成・事業承継」

- ・苫小牧の中小企業振興という観点とすべての業種に共通する課題という点から、審議会のテーマを「創業促進・人材育成・事業承継」に策定
- ・このテーマに基づいた、身近にある話や現状の共通認識として状況を把握し、課題や支援方法の大枠を検討していく。
- ・具体的な話や支援策等は、勉強会や部会などの機動力のある方法で検討していく

② 創業促進や事業承継への支援について

- ・事務局より説明。

③ 産業競争力強化法における、地域における創業支援について

- ・事務局より説明。

○質疑

▽委員

苫小牧では一年間で、どれくらいの件数のセミナーが開かれているのか。

▼事務局

主に事業承継や創業支援に関するもので、紹介した3件を核にして、3～4件程。

▽委員

苫小牧市では事業促進施策という部分で現在進めているものはあるか。

▼事務局

研修会・セミナーを開催している。

▽委員

行政としても融資制度について、検討していく余地はあるのではないかと。

▽委員

市へ融資制度について商工会議所として要望しているが、現実問題なかなか難しいところがある。道や国の機関でも、ハードルを下げた融資制度がある。

▽委員

中小企業振興条例を推進していく中で、市独自の制度があってもいいのではないかと。

▽委員

札幌市などでは融資制度を持っているが、実際の利用数が不明。制度を作っても、利用がないことも考えられる。情報を踏まえた上で検討していくべき。

▼事務局

次回の審議会までに、他市の状況等を調べて報告する。

▽委員

実態がよく分からない。創業したいという人がいるのかいないのか。年間相談件数や融資について。その実態を知りたい。

④ 創業促進や人材育成の課題の検討について

▽委員

市の施策で空き店舗活用事業という補助金があるが、家賃補助と改装費のどちらかの選択ではなくて、両方併用して使えるようなことはできないだろうか。

▽委員

創業セミナー等、情報発信が利用したい人に届いていないのではないかと。情報へのアクセスのハードルを下げないと、利用できないのではないかと。

▽委員

創業時の初期投資での支援が大切になってくる。若者のビジネスの裾野を広げるために、創業の機会を作って実践していくことが必要ではないかと。

▽委員

若い世代の人が苫小牧に残らないと仕事が増えない。若い人達のアイデアを積極的に取り込み、場を作っていくことが大事。雇用に対しての補助をもっと見直してはどうか。

▽委員

成功事例みたいなものがあればと思う。セミナーなどの教育ベースの部分が必要。

▽委員

高齢者の消費活動を上手に取り込んでいくことを考えていくのはどうか。

▽委員

楽しい時間を買いたい。思い出作りをしたいのだと思う。商店街の空き店舗にこだわらないほうがいいのではないかと。

▽委員

失敗事例にも気を配り、ダメージを少なくすることが再チャレンジにもつながる。そのような施策も重要なのではないか。

▽委員

駅前の魅力について情報を把握し、今後の展開を探っていくということが重要。若者や高齢者の交流の場を作っていくことを、支援策の中に盛り込んでいくというのはどうか。

▽委員

創業促進のためデータの的なものが必要。それが出てきてから議論を絞っていった方が効率的になるのではないか。人材育成ということで、失敗してもリスクを分散するようなことも必要。

▼事務局

中小企業の実態調査という形のアンケート調査行う。実態を把握して、どのような施策が効果的なのかを考える。

▽委員

良い街に住みたいということを考えるために、この審議会がある。総論の部分を審議会で話していきたい。

▽委員

苫小牧市のまちのあり方はどうあるべきか、そこが議論され、構想自体がないと議論のしようがない。市が資金提供等し起業するのでチャレンジしませんかという形の方がよいのではないか。それを積み上げていくと、一つのまちづくりが出来てくるのではないか。

▽委員

中小企業は商業だけでなく工業、建設を含めたところの支援ということで、議論していくべき。

▽会長

今後の取り組み方で、各論部分を審議会で話すのは難しい。任意の勉強会という形で話をしていき、部会につなげていくことを考えている。勉強会のメンバーについては、会長から声かけをしていきたい。勉強会や今後の部会での話しについては、審議会にフィードバックしていく。直近の勉強会は3月を予定している。

(6) その他

第4回審議会は、5月～6月頃の開催予定している。

(7) 閉会